

# 日本音響学会 2022 年秋季研究発表会 講演募集

開催月日：2022 年 9 月 14 日(水)，15 日(木)，16 日(金) (対面開催)

講演申込期間：2022 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金)

原稿提出期間：2022 年 7 月 8 日(金)～7 月 21 日(木)

## ★重要な連絡事項★

【申し込み・手続方法について】研究発表会に係る全ての申し込み・各種手続については原則本学会ホームページから行います。

### 【講演申込及び講演申込期間について】

- 講演申込期間は 2022 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金) です。この期間を過ぎますとお申し込みを受け付けられなくなりますのでご注意ください。
- 講演申込の受領メールは【連絡者】として登録したアドレスにお送りします。【講演発表者】に登録したアドレスではありませんので、ご承知おき下さい。

### 【原稿提出期間について】

- 2022 年秋季研究発表会における講演発表原稿の提出期間は 2022 年 7 月 8 日(金)～7 月 21 日(木) です。
- 講演発表原稿の提出は、期間を過ぎますと提出できなくなりますのでご注意ください。
- 講演発表原稿の受領メールは【連絡者】として登録したメールアドレスにお送りします。【講演発表者】に登録した講演発表者 e-mail にはお送りしませんので、ご承知おき下さい。

### 【研究発表会論文集発行日(公開日)】

- 講演論文集の発行日は開催日の 2 週間程度前になります。特許等の手続きをされる方はご注意ください。2022 年秋季研究発表会の **論文集発行日(公開日)** は 2022 年 8 月 31 日(水) です。

### 【事前参加登録について】

- 2022 年秋季研究発表会の web 経由の事前参加登録期間は、2022 年 6 月 20 日(月)～2022 年 8 月 18 日(木) **です。**事前参加登録サイトから登録をお願いします。事前参加登録は、通常参加登録よりも参加費を安く設定しております。
- 事前参加登録をされた方には、講演論文集を会期前に届くように事前送付します。
- 事前参加申込サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメール等でご案内いたします。
- 事前参加登録は、事前参加登録期間であればメールでの申し込みも受け付けます。事務局にお尋ね下さい。
- 事前参加登録をされた時点で、参加の手続きが完了したことになります。原則、手続き終了時からキャンセルはできません。

### 【通常参加登録について】

- 2022 年 8 月 19 日(金)以降の参加申込は、「通常参加登録」となり割引がありませんのでそれまでの登録をお奨めします。
- 「通常参加登録」の手続きは、現地または学会ホームページの通常参加登録専用のフォームからお申込みいただきます。学会ホームページからの通常参加登録は、2022 年 8 月 19 日(金)～9 月 2 日(金)までとします。これ以降は、会場での参加登録とします。ポータルサイトの「User ID」，「パスワード」と講演論文集は、現地でお受け取りいただきます。

### 【ポータルサイトについて】

- 2022 年秋季研究発表会では、発表スケジュール及び各種イベントの案内と参加者への連絡事項を掲載するポータルサイトを準備します。
- ポータルサイトの利用には、「User ID」及び「パスワード」が必要となります。事前参加登録の場合、「User ID」及び「パスワード」は事前にメールでお送りしますが、通常参加登録の場合、研究発表会当日に会場でのお渡しを予定しています。ポータルサイトを活用いただくために、事前参加登録をお願いいたします。

## 【研究発表会講演論文集のダウンロードサービス】

2022 年秋季研究発表会では、本会著作権規定第 4 条に則り講演論文集のダウンロードサービスを行う予定です。講演発表者の皆様には、原稿作成時および発表時に、著作権規定第 7 条にご注意をお願いします。本会著作権規定：<https://acoustics.jp/overview/copyright/>

## 【講演発表の講演の申込、参加に関わる費用について】

**講演申込料**：講演申込料は、講演申込 1 件について 5,600 円です。招待講演者は招待ですので無料となっています。詳細は、後掲の「講演申込料」の項を参照下さい。

**参加費**：会員外の招待講演者を除く講演発表者と聴講者は、所定の参加費のお支払いをお願いします。参加費の詳細は、「参加費」の項を参照下さい。

**入会手続き**：講演発表者は、当学会個人会員(正会員(名誉会員、終身会員)及び学生会員)である必要があります。講演発表を申し込む方で入会がまだの方は、学会のホームページから入会の手続きを行って下さい。

## ★講演募集要領★

2022 年秋季研究発表会を次のとおり開催します。2022 年秋季研究発表会は、感染症対策を施して**対面で開催**しますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず開催形態を変更する可能性があります。あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。講演希望者は講演申込要領を熟読の上、期限までにお申し込み下さい。講演申込 URL は、日本音響学会ホームページ (<https://acoustics.jp/>) でお知らせします。なお、講演論文集は、プログラム(要領)、講演要旨、講演論文 CD-ROM 等で構成し、A4 判、約 200 ページで発行いたします。

**開催月日** 2022 年 9 月 14 日(水)、15 日(木)、16 日(金)

**会場** 北海道科学大学

(札幌市手稲区前田 7 条 15 丁目 4-1 (〒006-8585),

JR 手稲駅北口より JR バスでバス停「北海道科学大学」で下車。所要時間は約 9 分。

JR 手稲駅北口よりタクシー利用の場合の所要時間は約 5 分、徒歩の場合の所要時間は約 25 分です。地下鉄宮の沢駅からは、JR バスでバス停「北海道科学大学」で下車。所要時間は約 25 分。所要時間は時間帯や道路状況により異なる場合があります。

**実行委員長** 松崎 博季 教授 (北海道科学大学)

**講演申込期間** (1) web からの申込；2022 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金) (期限厳守)

web 経由での申込ができない方は、事務局にご相談下さい。

(2) 申込確認 e-mail；申込受付後直ちに受付サーバーから受領通知メールを連絡先に登録した e-mail アドレスにお送りします。**必ず申込確認メールの受領を確認下さい。最終申込ボタンの押し忘れのため講演申込が完了していないケースがあります。**なお、受領通知が 24 時間以内に届かない場合は、学会事務局にご連絡下さい(原稿提出先 (2) の e-mail アドレス又は電話番号)。

**講演申込内容の修正期間** 2022 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金)

◎講演申込期間内であれば申込受付時に e-mail でお送りする整理番号及びパスワードで自由に修正可能ですが、期間後の修正はできませんのでご注意下さい。

**講演申込 URL** 日本音響学会ホームページ (<https://acoustics.jp/>) でお知らせします。

**提出原稿詳細** 作成・提出等の詳細は、「III. Web 経由の提出原稿」をご覧ください。

**原稿提出期間** (1) web からの原稿提出；2022 年 7 月 8 日(金)～7 月 21 日(木)

- (2) web 経由での原稿(2種類)の提出ができない方は、原稿提出期間内に学会事務局までご相談下さい。

**原稿提出先** (1) web の原稿提出サイト：講演申込の受付確認メールに記載  
(2) 学会事務局連絡先：e-mail：asj-meeting@acoustics.jp  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-20 ナカウラ第5ビル2階  
一般社団法人 日本音響学会研究発表会準備委員会 (Tel. 03-5256-1020 Fax. 03-5256-1022)

**研究発表会論文集発行日(公開日) 2022年8月31日(水)**

◎発行日の表示場所は、講演論文集の最終ページ(奥付)及びCD-ROMです。

### 研究発表会「参加登録」について

講演発表者および聴講者は必ず参加登録が必要です。2022年秋季研究発表会の参加登録は、申込の期日より、web 経由の「事前参加登録」とweb 経由または会場での「通常参加登録」に区分されます。詳細は、次の項をご覧ください。

事前参加登録は通常参加登録より安くなっております。参加費の詳細は、後掲の「参加費」の項をご覧ください。なお、スペシャルセッションの招待講演者で会員外の方の参加費は招待となります。参加登録の必要はございません。

#### 付記：

- (1) 現在会員外で、講演申込される方は、講演申込より先に入会手続きを行って下さい。講演発表者は、会員資格が必要です。「I 共通事項 1. 講演発表の資格」参照
- (2) 会員番号が不明な場合は、学会へお問い合わせいただくか、「不明」とご入力下さい。学会で確認をいたします。なお、入会手続きが終了し、会員番号が不明な場合は、「申請中」あるいは、会員申込受領通知(e-mail)に記載の受付番号(6桁)をご入力下さい。
- (3) 事前参加登録サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメールでご案内いたします。

### 「事前参加登録」について

- (1) 事前参加登録をされた時点で、参加の手続きが完了したことになります。原則、手続き終了時からキャンセルはできません。
- (2) 事前参加登録をされた方には、請求書(見積書、納品書を含む)又は「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書をお送りいたしますので、参加費のお振込みをお願いします。
- (3) 事前参加登録をされた方には、研究発表会開催前にお手元に届くように講演論文集をお送りします(論文集の発送は、2022年9月2日頃になります)。
- (4) 事前参加登録は、事前参加登録の期間中であれば、前記事前参加登録サイト以外にもe-mail等でも受け付けます。ただし、請求先、論文集送付先、e-mailアドレス等の必要事項の連絡が必要です。
- (5) 事前参加登録の受付期間は、**2022年6月20日(月)～2022年8月18日(木)**です。これ以降は、「通常参加登録」になります。
- (6) 事前参加登録のwebサイトは、学会ホームページでお知らせします。

### 「通常参加登録」について

- (1) 2022年8月19日(金)以降の参加申込は、「通常参加登録」となり割引がありませんのでそれまでの登録をお奨めします。
- (2) 「通常参加登録」の手続きは、現地または学会ホームページの通常参加登録専用のフォームからお申込みいただけます。ポータルサイトの「User ID」、「パスワード」と講演論文集は、現地でお受け取りいただけます。
- (3) 学会ホームページの通常参加登録専用フォームからの「通常参加登録」は、2022年8月19日(金)～9月2日(金)とします。これ以降は会場での参加登録を行ってください。
- (4) (web 経由)の通常参加登録の場合、請求書(見積書、納品書を含む)又は「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書をお送りいたしますので、参加費のお振込みをお願いします。
- (5) (会場での手続き)の通常参加登録の場合、現金払い(クレジットカード等による電子決済は利用不可)もしくは請求書類の郵送(研究発表会終了後)となります。

### 対面開催の実施方針

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、エアロゾル飛沫の浮遊量の低減、直接飛沫の防止、吸引量の低減、接触によるウイルス伝播の防止に努めます。
- (2) 講演会場及びポスター会場では、マスク着用の徹底、会場内に滞留する人数の制限、ソーシャルディスタンスの確保、換気、手指消毒、ドアノブなどの消毒を実施します。
- (3) 研究発表会への参加者全員に、総合受付前での検温に協力いただきます。37.5℃以上の発熱がある場合、当日の研究発表会へのご参加はご遠慮いただきます。
- (4) 新型コロナウイルス陽性及び濃厚接触者となった場合、開催地である北海道の基準で、ご参加の可否を判断します。
- (5) 新型コロナウイルス感染状況によっては、研究発表会の全てもしくは一部の実施形態を変更する場合があります。

**ポータルサイト** 2022年秋季研究発表会のポータルサイトでは、次のような案内を掲載する予定です。

- (1) スケジュール（口頭発表中一覧、口頭発表会場別、ポスター会場別）
- (2) イベント案内（開催日ごとの行事）
- (3) 案内各種（サイトの使い方、特設サイト等）
- (4) 参加者への各種連絡・マニュアル（聴講する皆様、講演発表者、座長・副座長、相談窓口）
- (5) 「賛助会員ポスター会場」の案内
- (6) 講演論文集への広告出展企業一覧

## I 共通事項

1. **講演発表者の資格**：当学会の正会員（名誉会員、終身会員を含む）、学生会員であること。

- (1) 会員外の方は、講演申込前に入会の手続きをして下さい。入会申込は、当学会ホームページ (<https://acoustics.jp/overview/membership/>) から手続きできます。
- (2) 研究発表会が始まる 1週間前までに入会手続きがなされていない場合は、講演発表は認められません。 この場合でも、講演論文集等からの当該講演の削除及び原稿の返却はできません。
- (3) 入会手続き後、会員会費が未納の場合も、発表をお断りする場合があります。
- (4) 既会員で、当該年度の会費が未納の場合も同様に発表をお断りする場合があります。

2. **講演件数**：一人2件以内。ただし、数件の講演連名者となることは差し支えありません。

※代理発表について

- 1) 原則として代理発表は認めません。
- 2) やむを得ない事情があり、事前に代理発表届(様式は事務局で準備します)が学会事務局に提出された場合には、連名者にかぎり代理発表を認めることがあります。
- 3) 上述の2)によって代理発表が認められる場合であっても、当初の講演予定者及び代理講演発表者が上記の「講演発表者の資格」を満たさない場合には、代理発表は認めません。
- 4) ポスターセッションの場合も、上述の1)～3)に準じますが、講演発表者が休憩等で席を離れる際の連名者の代理は認めます。
- 5) 栗屋潔学術奨励賞の有資格者の発表で代理発表が行われた場合は、当該発表は栗屋潔学術奨励賞対象者の発表とは認められません。学生優秀発表賞及び音声合成研究奨励賞吉田賞の場合も同様です。
- 6) オンライン開催の場合においても、代理発表は同じ扱いになります。

3. **講演申込料**：講演発表者の参加登録費とは別に、1講演につき、5,600円(税込)の講演申込料を申し受けます。

申込後、2022年7月下旬又は8月上旬に請求書(見積書、納品書を含む)又は「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書をお送りいたします。申込後申込者側の都合で講演が取り消された場合においても講演申込料をいただきます。

4. **講演の区分**：一般セッションとスペシャルセッションがあります。一般セッションは、発表形式により一般口頭発表と一般ポスター発表と表記します。

## (1) 一般口頭発表

- ア. 一般口頭発表の講演時間は、講演 1 件につき 15 分です。原則として、講演時間が 12 分、質問時間は 3 分、あわせて 15 分とします。
- イ. 会場内では、マスク着用とソーシャルディスタンスを確保した着席にご協力ください。感染症対策の詳細は、会場にて案内します。
- ウ. プログラムの詳細は、決まり次第、学会ホームページ等でお知らせします。**ポータルサイトへのアクセス時に、User ID とパスワードによる認証が必要です。User ID(受付番号)、パスワードは、「事前参加登録」の参加受付メールもしくは「通常参加登録」の場合は会場にてお知らせします。**

## (2) 一般ポスター発表

- ア. 超音波(水中音響, 熱音響技術を含む), 音声 A, 音声 B, 建築音響, 電気音響, 聴覚(聴覚・音声を含む)及び音声コミュニケーションの 7 部門を予定しています。プログラム編成委員会において調整した結果、ポスターセッションを開催しない場合も、また、前述以外の部門で一般ポスター発表を開催する場合もあることをご了承下さい。なお、スペシャルセッションでは、ポスター発表は募集しません。
- イ. 一般ポスター発表を希望する場合は、講演申込の際、該当欄をチェックして下さい。
- ウ. 一般ポスター発表への割当は、プログラム編成委員会で決定します。できるだけ講演発表者の希望に添うように編成を行います。が、プログラム編成上の都合及び対面開催における発表件数の制約等によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

付記:

- 1) 2022 年秋季研究発表会での一般ポスター発表は、次の二つの要素で開催する予定です。
  - ・講演発表者が作成したポスターを掲示する web サイト(「ポスター掲示サイト」)(LMS:Moodle を利用)
  - ・講演発表者と聴講者がリアルタイムに質疑を行う「ポスターセッション」(対面実施)
- 2) 「ポスター掲示サイト」にあるポスターは、会期中を通して閲覧が可能で、学会参加者は、フォーラム機能で質問等を記入することが可能です。講演発表者は、会期中随時自身のポスターに書き込みが無いかをチェックして、議論できます。
- 3) 一般ポスター発表の質疑は、対面での「ポスターセッション」で実施します。1つの「ポスターセッション」の時間は、プログラム編成の際に決定しますが、各ポスターの質疑応答は 60 分間の予定です。
- 4) 「ポスター掲示サイト」の詳細については、e-mail 及び学会ホームページ等でお知らせします。

## (3) スペシャルセッション(SS)

部門ごと又は部門横断的にテーマを選んで、隣接領域の研究者との交流及び新たな部門の創設を図り、より一層討論の活性化を図るためにスペシャルセッション(SS)を設けます。このセッションには招待講演等が含まれる場合もあります。今回は、次の 6 テーマを企画します。なお、スペシャルセッションでは、ポスター発表は募集しません。

### 1) 音声研究委員会

部門名: 単独(音声 B)

和文テーマ: 主観的な品質や類似性を反映した音声合成技術

英文テーマ: Speech synthesis reflecting subjective quality and similarity of voice

主旨: 2022 年に「音声合成研究奨励賞吉田賞」が創設されたことを記念して音声合成に関するスペシャルセッションを開催する。最近、単純な音声波形の再現だけでなく、主観的な音声品質や主観的な人物の類似性などを再現する音声合成技術が新たに生まれ、大きな注目を集めている。この新しい着眼点に基づく研究に取り組む研究者の招待講演を中心として、音声合成のみならず音声の知覚や評価に関わる研究者とも議論することを目指す。

### 2) 音楽音響研究委員会

部門名: 共催(音楽音響, 聴覚, 音声コミュニケーション)

和文テーマ: 発声や演奏での感覚フィードバック

英文テーマ: Sensory feedback in vocalization and musical performance

主旨: 発話や楽器演奏などの音を操作する技能は、聴覚や触覚などの感覚フィードバックを身体運動にうまく反映させることで実現される。例えば、発話の際には、自らが生成した音を聴覚でフ

ィードバックすることで、適切な音になるよう調整している。また、卓越した歌唱技術には、実時間の制御だけでなく、聴覚フィードバックに基づいた長期的な学習も必要とする。さらに楽器演奏では、弦の振動や鍵盤のタッチなどの触覚フィードバックも重要である。本スペシャルセッションでは、発声や楽器演奏時の感覚フィードバックに関する被験者実験、計算モデル、脳内メカニズム、動物の鳴き声制御についての研究などの発表を広く募集し、音響生成時のフィードバックについての議論を深める。

### 3) 高臨場感オーディオ調査研究委員会

部門名：共催（高臨場感オーディオ、電気音響、建築音響、聴覚、音楽音響、音のデザイン）

和文テーマ：新部門「オーディオ」とその関連技術

英文テーマ：Audio --- New research field of the ASJ and its science, technologies, and engineering

主 旨：高臨場感オーディオ調査研究委員会は、昨今の音響コンテンツ制作現場における立体音響再生技術の実用化を受け、電気音響、建築音響、聴覚、音楽音響、音のデザインなど、それぞれの分野で進められている研究の情報共有、活性化、実用化を目的としている。本セッションは、この度の部門「オーディオ」の新設を受け、関連する諸部門での最新の研究トピックを共有するとともに、学際的なディスカッションにより相互の交流を図るとともに情報の共有を促し、当該分野の発展を目指すものである。

### 4) 音のデザイン調査研究委員会

部門名：共催（音のデザイン、音楽音響）

和文テーマ：音楽の機能的な利用

英文テーマ：Functional use of music

主 旨：音楽は芸術的な側面のほかにも、機能的な側面を持つ。テンポやムードの制御、情動への働きかけといった機能に期待し、さまざまな音楽が教育、祭礼、運動、応援、消費喚起、コミュニケーション支援、メッセージ伝達、リラクゼーションなどに用いられている。本セッションでは、このような音楽の利用に着目し、それらの事例や機能性、要件について議論を行う。本セッションでは一般講演も募集する。

### 5) 音声コミュニケーション研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：危機にある言語・文化や記録について考える

英文テーマ：Endangered languages/cultures & archiving

主 旨：国内外では消滅の危機に瀕している言語や方言、そして文化など、深刻な状況にあるものも少なくない。その中には、例えばアイヌ語やアイヌ文化があげられる。今はそこまで深刻ではないとしても、言語の経時的な変化を追うことは言語学にはもちろんのこと、音声工学の側面からも重要なテーマである。そこで本スペシャルセッションでは危機にある言語・文化に焦点を当てると同時に、言語や文化をいかに記録に残すかという側面についても取り扱う。数名の招待講演者に加え、一般講演も同時に広く受け付ける。

### 6) スポーツ音響調査研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：スポーツと音 その8

英文テーマ：Sports and acoustics VIII

主 旨：スポーツ分野への音響学の貢献の可能性を探りながら音響学の新しい分野の構築をめざし、多方面からの議論を続けている。柔道・剣道・バドミントンなどのスポーツ分野をはじめ、万葉かるたなどのe-スポーツ分野からの研究発表も重ねられてきた。さらに、新たな教育研究分野の開拓ともなるべき活動報告も行われ、今後の展開が期待される。2022年秋季研究発表会では、音響学会以外での学会のスポーツ研究分野とのコラボレーションを図りつつ、スポーツ音響研究のさらなる発展・展開をめざす。

5. 使用言語：講演及び講演原稿の使用言語は、日本語及び英語とする。

## II. 講演申込

1. 講演申込サイト：日本音響学会ホームページでお知らせします。

2. 講演申込の概要：講演申込サイトの入力・選択順に記載してあります。

(1) 部門の選択：部門は、音響教育、超音波（水中音響、熱音響技術を含む）、電気音響、オーディオ、騒音・振動、建築音響、アコースティックイメージング、聴覚、聴覚・音声、音声コミュニケーション、音声A、音声B、音楽音響、音支援（音バリアフリー）、音のデザインの15部門で募集。詳細は、後掲の「表1. 各部門のセッション名のリスト」を参照して希望部門を選択下さい。

2022年秋季スペシャルセッションは、「I. 共通事項（3）スペシャルセッション」に記載の6テーマで募集します。スペシャルセッションを希望の場合は、ここでスペシャルセッションを選択して下さい。

プログラム編成上の都合で希望部門にならない場合もありますのでご了承願います。

なお、発表件数の多い部門では、講演発表の際に部門内で並行した時間帯となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

これらの部門のうち、「音声A」は機械による音声の聞きとりを目的とした処理過程を扱い、「聴覚・音声」は人（あるいは動物）の聴覚を介した音声（あるいはコミュニケーション音）の聞きとり、処理過程を扱います。「音声B」は音声の産出過程を扱います（何らかの信号処理が施されたものを含む）。「音声コミュニケーション」は人間による音声生成・音声知覚の両方を含む音声言語科学や音声コミュニケーションに関わる周辺部門、言語教育応用・臨床応用などを広く含みます。従って、「音声A」は『音声の認識・強調・翻訳・検索、音声対話システム』など、「聴覚・音声」は『音声の知覚学習過程、主観評価、中枢機能（聴覚言語障害）』など、「音声B」は『音声の分析・合成・符号化方式、信号処理』など、「音声コミュニケーション」は『音声科学からその周辺・応用分野まで』などを対象とします。

「音響教育」部門は、音響に関わる教育プログラム、教育システム、教材の開発などのほか、音響教育に関する事例、実践、調査の報告、教育における音の利用など幅広い研究発表も対象とします。

「音支援（音バリアフリー）」部門は、障害者・高齢者支援、快適なコミュニケーションの実現を目的としたデバイスやシステム、音のバリアフリー・ユニバーサルデザインなどの他、障害者教育における音の利用など幅広い研究発表を対象とします。

「オーディオ」部門は、3Dオーディオ、マルチチャンネル音響、音楽録音、オーディオ符号化およびレンダリング、臨場感・没入感評価、音像、アンビエンス、オブジェクトベースオーディオ、音場再現、オーディオ信号処理、オーディオアプリケーションなどの研究成果を対象とします。

「音のデザイン」部門は、製品音のデザイン、サイン音のデザイン、サウンドスケープ・デザイン、公共空間の音環境デザイン、音のユニバーサルデザイン、映像メディアにおける音のデザイン、あるいは音のデザインの基礎となる音質評価などの研究成果を対象とします。

「超音波」部門に今季から包含することとなった「水中音響」の部門は、海洋などの水中での音波伝搬、音波により海洋などの水中環境の情報を得る音響トモグラフィ、生物の超音波利用に関わる生物音響など水中音響全般に亘る研究成果を対象とします。また、「熱音響技術」部門は、熱音響現象の物理、熱音響利用に関する技術展開、熱音響技術の応用展開の熱音響技術全般に亘る研究成果を対象とします。

(2) 題目：論文内容を明確に表すようなタイトルとし、「〇〇研究第〇報」というような表現は副題として下さい。

(3) 著者リスト：

・「著者区分」は、次の通りとし、「著者区分」に従って、著者区分マークを選択して下さい。

ア. 学生優秀発表賞対象者：著者区分マーク“☆”

学生優秀発表賞対象者として登録できる方は、講演発表者で、(1)講演の時期において学生会員である者、(2)研究発表会講演申込の際、講演発表者として登録し、かつ講演を行った者、(3)この賞を受けたことのない者、です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように発表プログラム(講演申込時の記載による)、要旨及び講演原稿(CD-ROM)の講演発表者氏名の前に“☆”印を付して下さい。

なお、学生優秀発表賞の対象者は、栗屋潔学術奨励賞の対象者にもなります。

イ. 栗屋潔学術奨励賞対象者：著者区分マーク“◎”，学生会員は“☆”

栗屋潔学術奨励賞対象者として登録できる方は、講演発表者で、(1)講演時において学生会員である者又は当該年度末において満年齢39歳以下の正会員であるもの、(2)研究発表会講演申込の際、講演発表者として登録し、かつ講演を行った者、(3)選定の時期において本会会員である者、(4)この賞を受けたことのない者、です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように発表プログラム(講

演申込時の記載による)、要旨及び講演原稿(CD-ROM)の講演発表者氏名の前に“◎”印又は学生優秀発表賞の対象者は“☆”印を付して下さい。

ウ. 講演発表者で上記ア及びイに該当しない方: 著者区分マーク“○”

エ. 連名の会員: 著者区分マークは無記入

オ. 連名の非会員: 著者区分マーク“△”

- ・「会員 No.」は、会員の講演発表者は必ず記入して下さい(講演発表者以外は、未記入で可)。会員申請中の方は申請中と記入して下さい。
- ・「姓(漢字)」、「名(漢字)」は、アルファベット表記の氏名の方もカタカナ又はアルファベットでご記入下さい。
- ・「Name(英文 姓一名)」は、アルファベットの氏名で“姓 名”の順で入力下さい。
- ・「所属(略称表記)」は、プログラム一覧の表記に必要な所属を省略した形で記入し、詳細すぎる所属は避けて下さい。記述内容は、学部、大学院、研究所程度までとして下さい。株式会社の表記は除いて下さい。標記が長すぎる場合は、プログラム作成時に、短縮または削除する場合があります。

例; ○○大学工学部→○○大・工, ○○大学××大学院△△研究科→○○大院・△△研

○○株式会社××事業部→○○(あるいは必要に応じて○○・××事)

(株)○○××研究所→○○・××研

- ・ 講演発表者、連名者で、個々に複数の所属を表示する場合の区切り文字は、”/(半角スラッシュ)”を使用して下さい(重要、全角スラッシュは使用しないで下さい)。

(4) 発表原稿ページ数: 「2」または「4」ページより選択して下さい。

(重要) 申込確定後の原稿ページ数の変更はできません。申込受領後にそれぞれの講演発表のページ番号を振り分けます。

(5) 講演発表者情報: 講演発表者の方への連絡に必要です。発表される方の e-mail アドレスをご記入下さい。携帯電話のメールアドレスは、避けて下さい。なお、講演発表者情報に記載の e-mail アドレスには、講演申込及び講演原稿の受領通知等は、お送りしません。これらは、【連絡者情報】の e-mail アドレスにお送りします。

(6) 連絡者情報: 請求書等の送付及びメールでの諸連絡に必要です。項目に従ってご入力下さい。講演申込及び講演原稿の受領通知は連絡者のメールアドレスにお送りします。メールアドレスを [半角カンマ] ”,” で区切れば、複数件のメールアドレスの登録が可能です。ただし、誤って [全角カンマ] や [スペース] で区切るとすべてのメールアドレスが無効になります。ご注意下さい。

(7) セッション名・キーワード及び要旨: 希望のセッション名を一つ選択して下さい(なお、各セッションへの割り当て及びセッション名の決定は、講演申込状況全体を勘案して、プログラム編成委員会で決定します)。「キーワード」は5つ程度を入力下さい。「要旨」は発表内容が分かるように100字程度で記載して下さい。なお、キーワードは、講演原稿を収めた PDF ファイルの検索にも使いますので、適切な言葉を選んで下さい。

(8) 発表形式: 一般セッションの方は発表形式をポスター発表又は口頭発表の内から「希望する」、「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい。なお、ポスター発表を実施しない部門で発表する場合は、記入する必要はありません。

※一般ポスター発表への割当は、プログラム編成委員会で決定します。できるだけ講演発表者の希望に添うように編成を行います但プログラム編成上の都合によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

(9) スペシャルセッション: 部門の選択画面でスペシャルセッションを選択した方のみ選択して下さい。招待講演だけで構成するスペシャルセッションやスペシャルセッションを実施しない部門で発表される場合は、選択しないで下さい。

(10) 懇親会参加申込: 懇親会の実施は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して慎重に検討します。2022年秋季研究発表会では、懇親会の事前参加申込は行いません。懇親会開催の有無等は、学会ホームページ

等でお知らせします。

(11) 事務連絡：プログラム編成委員会・学会事務局へ連絡がありましたらご記入下さい。

### III. 提出原稿

1. 提出原稿：次の2種類のPDFファイルを用意して提出して下さい。

(1) 講演論文原稿 (A4サイズ (210 mm×297 mm), 縦長, 原稿ページ数は2又は4ページ: CD-ROMに収録)  
※原稿ページ数は、申込時のページ数と一致させて下さい。申込確定後の修正はできません。申込受領後、全ての原稿のページ数を指定するため原稿提出時の変更には対応できません。

→原稿の詳細は後掲の「2. (2) 講演論文原稿の仕様」を参照して下さい。原稿作成のためのスタイルファイル及びテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。このスタイルファイル及びテンプレートは、新しい仕様になっておりますので、旧来のファイルをお持ちの方は差し替えをお願いします。

(2) 講演要旨原稿 (A4サイズ, 縦長, 1ページ: 講演論文集に印刷, レターサイズは受け付けません。)  
→必ずA4サイズで縦長 (210 mm×297 mm) で作成下さい。  
→MS-Wordのテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。

#### 2. 講演論文原稿

##### (1) 概要

- ア. 提出いただく原稿はすべてPDFファイルで提出して下さい。A4サイズ (210 mm×297 mm), 縦長。講演申込時に指定したページ数 (2又は4ページ) で作成して下さい。容量は原則として最大1MBです。**レターサイズは使用しないで下さい。**招待講演のページ数等も同様です。
- イ. この原稿作成のためのLaTeX用のスタイルファイル及びMS-Word用のテンプレートを準備いたしました。本学会ホームページからダウンロードして使用して下さい。
- ウ. LaTeX及びMS-Word以外のソフトウェアで原稿を作成される方は、原稿作成時の上下左右のマージンを守って作成下さい。
- エ. PDFファイルに変換ができない方又はPDF原稿をweb経由で提出できない方は、事務局で代行します。原稿を作成の上、原稿提出期間内に学会事務局に郵送(電子データ)又はe-mail(添付ファイル)でお送り下さい。
- オ. PDFファイルの作成プログラム(ネット上のサイトを含む)によっては、原稿受領サーバーが受け付けないケースがあります。ご注意下さい。

##### (2) 講演原稿の仕様

- ア. マージン：提出いただいたPDF原稿に機械的に講演番号、スペシャルセッションの場合はそのテーマ名、発表会名、ページ数、年月を入れることとなります。従いまして、原稿の上下左右のマージンが守られていない場合は文字が重なることとなります。学会から提示するLaTeXのスタイルファイル及びMS-Wordのテンプレートを利用されない場合は特にご注意下さい。
- イ. マージンのサイズ

	寸法(mm)
左マージン	23
右 〃	23
上 〃	17
下 〃	19

- ウ. LaTeXの標準スタイルファイル：ホームページ (<https://acoustics.jp/annualmeeting/>) からダウンロードして入手して下さい。
- エ. MS-Word用の標準テンプレート：ホームページ (<https://acoustics.jp/annualmeeting/>) からダウンロードして入手して下さい。

○ 本文の文字の大きさとフォント種別

Table 1 Fonts to be used in the manuscript

文章の種類	フォントサイズ	日本語フォント	英数字フォント
タイトル	14 pt	MS 明朝	Times New Roman
著者	12 pt		
英文タイトル (脚注)	11 pt	—	
セクション (見出し 1)	12 pt	MS ゴシック	Arial
サブセクション (見出し 2) ※謝辞, 参考文献も同様	11 pt		
本文		MS 明朝	Times New Roman
図表のタイトル			
謝辞本文			
参考文献本文			

\*A4 サイズ (210 mm×297 mm), 縦長とし, レターサイズは使用しないで下さい。

オ. 上記のウ又はエ以外のソフトウェアで原稿を作成される方は, 原稿の上下左右のマージンは必ず守って下さい。また, フォントのサイズ, 種別等はできるだけ上記に近い仕様で作成することをお勧めします。上記以外のフォントを用いた場合には PDF 原稿に全てのフォントを埋め込んで提出して下さい。

カ. 講演論文の PDF 原稿のファイル容量: 講演原稿のページ数(2 又は 4)にかかわらず原則として 1 MB を上限とします。写真等を貼り付ける際は十分ご注意ください。

キ. その他: PDF 原稿を提出いただくにあたり, 原稿の表現方法が多様になります。幾つかの点について検討をいたしました, 現時点で対応している事項は次のとおりです。

- ・カラーの図, 表及び写真等を入れることは問題ありませんが, 原稿の容量が 1 MB を超えないことを条件にします。
- ・参考文献等にリンクを張ることについて, 著者の自己責任を条件に許可します。特に, リンク先が有料の場合のほか, リンク先の著作権を侵害はしないこと等に十分配慮し, 原稿作成時点での確認をお願いします。

(重要)

#### ■PDF 作成上の注意

投稿後, PDF 編集を行う関係上, PDF ファイルに対しセキュリティ設定 (ファイルロック, パスワード等) を行わないで下さい。

必ず A4 サイズ (210 mm×297 mm) で作成して下さい。レターサイズは受け付けません。

### 3. 講演要旨原稿

#### (1) 概要

ア. 講演要旨は, 講演論文集に印刷して, あらかじめ聴講者に概要を知らせる目的のものです。約 45%縮小して 1 ページあたり 4 題の講演を印刷します。提出は PDF ファイルで, 使用する文字の大きさは, 講演題目及びタイトル 24 ポイント, 英文タイトル 16 ポイント, 著者氏名 16 ポイント, 本文 18 ポイントで作成して下さい。A4 サイズ (210 mm×297 mm) 1 ページの縦長で, 上下左右のマージンは共に 15 mm 以上として下さい。

イ. 原稿は, 講演番号, タイトル, 英文タイトル, 講演発表者名 (連名含む) 並びに講演要旨等で構成して下さい。作成例及び MS-Word 用のテンプレートを本学会ホームページに掲示します。

講演番号は, プログラム編成委員会終了後の 7 月 1 日頃に e-mail で連絡します。

ウ. PDF ファイルに変換ができない方又は PDF 原稿を web 経由で提出できない方は, 事務局で代行します。

エ. 講演論文集に 1 ページ当たり 4 題となるように縮尺して印刷します。

オ. 講演要旨は, 2022 年 9 月 1 日頃, 学会ホームページ上でも公開します。

#### ■PDF 作成上の注意

投稿後, PDF 編集を行う関係上, PDF ファイルに対しセキュリティ設定 (ファイルロック, パスワード等) を行わないで下さい。

## (2) 講演要旨原稿の仕様

### ア. 原稿の向き・大きさ・マージン

A4 縦長とし、マージンは、上下左右ともに 15 mm 以上として下さい。

横長で作成された原稿は縮尺が大きくなるため、印刷すると判読できなくなります。また、レターサイズは使用しないで下さい。

※原稿の向き・マージンは必ず守って下さい。

イ. 記入すべき事項：講演番号，タイトル，英文タイトル，講演発表者名（連名含む）並びに講演要旨等。

ウ. 注意事項：提出いただいた要旨用の PDF 原稿は、45%程度縮小して印刷することになります。

縮小して印刷しても内容が分かるようにポイント数，行数を十分配慮して作成して下さい。図を用いても結構ですが、縮小に堪えうるものとして下さい。文献等は、講演論文原稿に表示し、要旨には記載しないで下さい。

## 講演発表時の図，表作成時の注意点

論文集に掲載される原稿と同様に、発表時に使用する「スライド」や「ポスター」では、図，表の縦・横軸の説明文や題名等は、英語表記をお願いします。

## 参加費

1. 参加費は、講演発表者を含み、参加者全員から申し受けます。できるだけ事前参加登録をご利用下さい。なお、会員外の招待講演者は招待になりますので、参加登録は必要ございません。学会から参加に必要な「User ID，パスワード」を直前になりますがご連絡します。

2. 参加費の中に講演論文集を含みます。

3. 参加費は「事前参加登録費」と「通常参加登録費」の2つの区分があり、それぞれの参加費は次の通りです。

参加種別	事前参加登録費 (2022/06/20～2022/08/18)	通常参加登録費 (2022/08/19～)※
ア. 正 会 員 ………	10,000 円	12,000 円
イ. 終 身 会 員 ………	5,000 円	6,000 円
ウ. 学 生 会 員 ………	3,000 円	3,500 円
エ. 賛助会員所属職員 ………	10,000 円	12,000 円
オ. 会 員 外 学 生 ………	5,000 円	6,000 円
カ. 会 員 外 ………	22,000 円	26,000 円
キ. 高 校 生 ………	無料	

※学会ホームページからの通常(会場)参加登録は、2022年8月19日(金)～9月2日(金)です。これ以降は、会場での参加登録となります。

なお、研究発表会終了後の講演論文集の販売価格は、会員 12,000 円、会員外 26,000 円です。

また、会員の参加費(前記ア～エ)は消費税の課税対象外(不課税)です。会員外(前記オ～カ)は消費税の課税対象です。

付記：参加費の請求書は、参加申し込み確認後にご指定の住所にお送りします。

## 講演申込料

講演発表には、参加登録費とは別に 1 講演につき 1 件分の講演申込料を申し受けます。講演申込料は 5,600 円です。2022年7月下旬又は2022年8月上旬に請求書(見積書，納品書を含む)又は「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書のいずれかをお送りします。別に請求書(見積書，納品書を含む)が必要な場合、又は「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書が必要な場合は、e-mail 等でご連絡いただければ対応いたします。

「ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストア」払込書で納付いただきますと振込の手数料はかかりません。

銀行振込で納付される場合は、手数料が必要になりますので、ご承知おき願います。当学会郵便振替口座への納付も可能です。

郵便振替先 (社)日本音響学会 00120-9-136290

銀行振込先	三菱UFJ銀行	新宿中央支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	3935498
	三菱UFJ銀行	神田駅前支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	1671112
	三菱UFJ銀行	秋葉原支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	3909748
	みずほ銀行	新宿西口支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	1164066
	三井住友銀行	神田支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	2175551

※当学会は、一般社団法人ですが、金融関係では「シャ）ニホンオンキョウガッカイ」で処理されるようです。

## 懇 親 会

**開催日時** 懇親会の実施は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して慎重に検討します。2022年秋季研究発表会では、懇親会の事前参加申込は行いません。懇親会開催の有無等は、学会ホームページ等でお知らせします。

表 1. 各部門のセッション名のリスト

部門の種類	セッション名
音響教育	教育プログラム／カリキュラム, 教育システム, 教育音響, 教材, 教育ソフトウェア, 実験, デモンストレーション, シミュレーション, 可視化／可聴化, サウンドスケープ, 音響学の歴史
超音波 (水中音響, 熱音響技術を含む)	物理音響・超音波物性, 非線形音響, デバイス・材料／アクチュエータ, 非破壊検査・超音波計測, 強力超音波・ソノケミストリー, 熱音響, 医用超音波, 音波伝搬, 音響トモグラフィ, 生物音響, 水中音響
電気音響	トランスデューサ (マイクロホン・スピーカ・センサ等), 計測手法, 音源分離, エンハンスメント (雑音除去, 残響除去等), 音源定位・到来方向推定, 音響イベント・音検出/分類, 音場収録・解析, 音場再生・制御, 空間音響・バイノーラル技術, アクティブノイズコントロール・エコーキャンセレーション, ネットワークオーディオ, 音質評価・評価手法, 音響応用, 音響信号処理
オーディオ	3D オーディオ, マルチチャンネル音響, 音楽録音, コンテツツ制作, オーディオ符号化, オーディオレンダリング, 残響生成・付加, 臨場感・没入感, 音質評価, 音像, アンビエンス, オブジェクトベースオーディオ, シーンベースオーディオ, 音場再現, オーディオ信号処理, オーディオアプリケーション
騒音・振動	計測法, 音源識別, 音源探査, 数値解析, 交通騒音, 道路交通騒音, 道路交通騒音予測, 低騒音舗装, 航空機騒音, 鉄道騒音, 機械騒音, 音響放射と伝搬, 固体音, 空力騒音, 気流騒音, 屋外騒音伝搬, 騒音振動制御, 能動騒音制御, 防音壁, 吸音材, 社会調査, 心理評価手法, 心理・生理, 振動と音響, 音質改善, サウンドスケープ
建築音響	音源・伝搬, 音響入射・反射, 拡散・散乱, 吸音, 遮音, 音響材料, 固体音, 床振動・床衝撃音, 理論解析・数値解析, 室内音場, 聴感評価・指標, 音声伝達, スピーチプライバシーセキュリティ, 音場計測・測定法, 音場制御, 音響設計, 学校音響
アコースティックイメージング	可視化／可聴化, 映像化／音像化, 画像応用, シミュレーション, 音響教育・理解ツール, 感性表現, 立体音響, 計測・解析・評価, デバイス技術, 新しいアプローチ
聴覚	聴覚生理, 中枢機能, 時間知覚, 音像定位, 聴覚心理, マルチモダリティ, 聴覚の時間的側面, ラウドネス知覚, ピッチ知覚, 音色知覚, 聴覚モデル, 福祉音響, 聴覚障害, 動物の聴覚, 動物の聴覚と音声, 音質評価, 聴覚末梢と音声, 記憶とマルチモダリティ, 障害と知覚, 視聴覚, 脳活動計測, 空間知覚
聴覚・音声	音声言語知覚, 福祉音響, 韻律, 知覚と生成, 音声言語習得, マルチモダリティ知覚, 音声言語障害, 音声の評価, 音声言語学習システム, 中枢機能, 発達学習, ピッチとラウドネス, ブレインイメージング, 音声言語・発達, 補聴, 評価・予測
音声コミュニケーション	音声科学 (音声生成・音声知覚), 音声学・音韻論, 言語獲得 (第1言語・第2言語), 言語教育・言語学習, コミュニケーション障害・音声言語治療, 音声言語医学, 音声伝達, 音声言語と認知心理学, 音声言語と言語発達, 音声言語と脳神経科学, 音声言語と福祉, 音声言語と法科学, 人と人の音声対話・コミュニケーション, マルチモーダルコミュニケーション, コミュニケーション支援・学習システム
音声 A	音声認識, 音響モデル, 音響特徴量, 言語モデル, 話者認識, サーチ, 適応技術, 耐雑音性, 音声区間検出, 音声システム・組込み技術, 音声インタフェース, 音声対話, 信頼度, マルチモーダル, 音声情報検索, 音声ドキュメント処理, 多言語処理・音声翻訳, パラ言語・非言語情報の認識, 音声イベント・環境音, 音声セキュリティ
音声 B	音声分析, 音声合成, 音声・オーディオ符号化, 韻律, 声質, 歌声, テキスト音声合成, 単位選択・素片選択, パラメトリック音声合成, DNN 音声合成, 声質変換, 外国語音声の特徴分析, 言語教育・学習支援, パラ言語・非言語情報の分析・合成, 発話障害, 音声福祉応用・障害者支援
音楽音響	弦楽器, 管楽器, 打楽器, ピアノ, 歌声, 演奏, 振動, 音響分析, 音響合成, 音楽情報処理, 知覚・認知・心理, 音高・音階・音律

音支援（音バリアフリー）	バリアフリー，ユニバーサルデザイン，音響福祉／福祉音響，音によるコミュニケーション支援，音案内，補聴，アシスティブデバイス，障害者支援，高齢者支援，障害者教育，障害者のための音環境，高齢者のための音環境，子供のための音環境，高齢社会
音のデザイン	製品音のデザイン，サイン音のデザイン，サウンドスケープ・デザイン，公共空間の音環境デザイン，音のユニバーサルデザイン，マルチメディアにおける音のデザイン，音のデザインの基礎となる音質評価